

長日処理がランタンキュラスの開花に及ぼす影響

牛田均・竹内小百合

香川県農業試験場研究報告 第 61 号(2010 年 3 月) 29-34

香川県内で普及している品種を供試して、長日処理による開花促進効果や切り花の収量性の違いを調査するとともに、開花促進技術の可能性について検討した。

1. 長日処理は出葉を早くするために、出蕾・開花を早めるが、その程度は品種によって異なった。
2. 出蕾始めの葉位は品種で異なり、長日処理の影響を受けなかった。
3. 長日処理で「桜てまり」の腋芽数は減少したが、「月てまり」と「紅てまり」の腋芽数は、長日処理の影響が小さかった。
4. 「月てまり」は茎頂培養後の年数で到花日数が異なり、2 年目の方が短くなった。
5. 以上から、品種によってまだ解決すべき課題が残っているが、長日処理は促成栽培技術につながる手法であると思われた。

キーワード：ランタンキュラス，開花促進，長日処理，冷蔵処理，出葉速度，抽台